

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391100047		
法人名	有限会社 介護施設あお空		
事業所名	あお空グループホーム釜石		
所在地	〒026-0302 岩手県釜石市片岸町第2地割13-28		
自己評価作成日	令和6年9月1日	評価結果市町村受理日	令和6年11月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護福祉士を中心に各自役割を分担し、担うことで支援の意識を高めている。また、技能実習生を迎え、人材の育成にも力を入れている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営法人は県内に数カ所の地域密着型サービス事業所などを開設し、それぞれ特色のある運営が行われている。高台にあって、グループホームと小規模多機能ホーム、サービス付高齢者住宅が併設され、3施設は日常生活や行事を共同で行ない、職員は兼務の形で利用者を一体的に支援している。事業所では職員の質の向上を目指し、各種資格取得、内外の研修受講を積極的にサポートしている。職員不足が課題となる中、インドネシアからの技能実習生を受け入れ、教育係を中心に業務が円滑に進むよう配慮されている。職員の子育てや介護に配慮したシフトが組まれ、長く働ける環境が作られている。また、事業所では在宅診療クリニックとの連携により看取りに積極的に取り組んでおり、家族や利用者の安心につながっている。事業所では、小・中学校とも連携した認知症出前講座や地域の認知症相談窓口の役割も果たしていきたいと考えている。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年9月27日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者と共に過ごす時間を楽しいと感じられなければ利用者も、また同じ気持ちであると思うので、明るく楽しい生活の場を提供するよう施設の理念として努力をしている。	わかりやすい「笑顔で楽しく」とする理念のもと、利用者と職員の関係づくりを基本として、利用者も職員も毎日笑顔で過ごせる事業所を目指し、住み心地のよい支援の提供に努めている。利用者、家族からは「雰囲気がいい、入って良かった、ここで終わりたい」等の声をいただいている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との連携は少しずつ進んでおり、それに合わせて施設としてもかかわりを深めていきたい	4月のお花見会では地域の「伝承会」の方々に踊りや歌を披露していただき、久しぶりに賑やかに過ごすことができた。地域で行われるボッチャに利用者が参加したり、職員が自治会総会や地域の海岸掃除に参加するなど、地域とのつながりを確かなものに出来るよう努力している。年に数件ではあるが、地域の方々から認知症の相談を受けている。	小・中学校と連携した認知症出前講座や、地域の認知症相談窓口の役割も果たせるよう、それを担える職員の育成に取り組まれることを期待します。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	居宅支援事業所と連携し事業所の特性を説明し理解を深めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況の報告をし報告に対する質問や改善の指摘を運営に生かす努力をしている	運営推進会議は小規模多機能ホームと合同で開催し、運営状況や利用者の様子を報告し、また、事業所で受け入れの技能実習生についての報告や地域の話題等について情報交換を行なっている。管理者は、双方向の意見交換が活発にできるような会議にしていきたいとしている。	警察、消防、学校の関係者がオブザーバーとし会議に出席し、関係する話題等について説明する機会を持つよう検討されることが望まれます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役所が主体となって連絡会議を開いており、毎回参加するように心がけている	市主催の連絡会議に参加し、情報交換や研修、事例検討等を行っている。市高齢介護福祉課（釜石市地域包括支援センター）及び市地域福祉課（生活保護の主管課）とは顔の見える関係が出来上がっており、連携が図られている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会にて定期的に会議を開き検証、研修するなどして取り組んでいる。	小規模多機能ホームと合同で3ヵ月毎に委員会を開催し、指針の確認や研修受講報告のほか、研修も行っている。研修のテーマは、スピーチロックやドラッグロックに止まらず、介護の質の平準化を目的に利用者の心理や対応の技術等に関するものが増えている。玄関の施錠は夜間帯のみとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止対策委員会を発足し定期的に会議を開き検証、研修するなどして取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者から実務(成年後見制度利用者)を通じ必要に応じて職員に制度の内容を説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不明な点や疑問があればその都度、説明し理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等で家族や利用者の要望、意見を求め、その意見を運営に活かすよう努めている。	居室担当を中心に利用者や家族との関係づくりに取り組んでいる。利用者の意向を汲み取るとともに、ストレスが溜まっていると観察される場合には一緒に買い物に出かけ、帰宅願望が強い場合にはドライブしたりしている。家族から通院や看取りの質問があった場合も、居室担当がお話を聞き取り説明を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者及びリーダークラスのメンバー構成で運営会議を行い意見や要望の検討を行う機会を設け施設運営に反映させている。	業務に関する職員アンケートに基づき、遅番の業務内容を見直している。外国人技能実習生2名が在籍し、その実習生に市内のサービス施設の見学も必要との教育担当職員の提案を受け、他の施設の視察が実現している。管理者は、職場には職員から意見を出しやすい雰囲気があるとされている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場環境の改善に努め柔軟な対応をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資質向上は必須条件と捉え新人研修から資格の取得など積極的に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護職員が同業種と関わる機会が少なく今後の課題でもある。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談でサービスの理解ができない場合も多く回数を重ねて理解と納得を得られるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族の不安感の軽減に努めながら問題点を共有し支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズに合わない場合もあるので、その場合は他の事業所との連絡、調整も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室の掃除や、食事前のテーブル拭き、洗濯作業など能力に応じて協力してもらっている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	担当職員を配置し家族と連携を図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症対策のため面会制限や外出制限があることも多く思うようにできていない。	入居時に利用者の馴染みのある人を家族から聞き取っているが、遠方の家族や叔母などの交流の少ない関係者しか挙げられない場合もあり、その時は本人の普段の会話から聞きとったり、推察するように努めている。近年、馴染みの人を特定すること自体が困難になってきている。馴染みの床屋に、家族と一緒に出かける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話が合う方同士を食席配置し孤立しないよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その後の経過について家族や事業所に必要に応じて問い合わせしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員を配置し利用者1人1人の意向の把握に努めている。	普段の会話や入浴時に聞き取った利用者の思いは、日々の業務記録に記載し、ケース会議等で職員間で共有を図っている。帰宅願望のある方については、注意深く観察しながら、本人の気持ちが少しでも落ち着くよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の生活の中で担当職員を中心に本人様、ご家族様より情報を得ている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で常に見守りを行い異変があればすぐに対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	短期間6か月、長期1年毎に計画の見直しを行っている。居室担当職員とケアマネによる3か月毎のモニタリングと、カンファレンスを経て介護計画案を作成し、家族の意向を聞き取り、ケアマネが介護計画を作成している。	カンファレンスにはケアマネ、ケアプラン作成担当者、居室担当に看護師等を含めた6名程度の職員が出席し、利用者の状態を把握した上で介護計画案を作成している。家族には、来所時に説明し同意をいただいている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は記入出来ているが、ケアへの実践、結果を記入し情報の共有はできていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設の機能を見て出来る事は直ぐに対応することを旨としている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の実状をみながら今後も関係構築に努めて行く。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の対応範囲で可能な限り複数の医療機関への受診に対して家族の協力も得ながら支援を行っている。	かかりつけ医の受診は家族対応が1人、事業所対応が2人となっている。他の利用者は、それぞれの事情を考慮したうえで月2回の訪問診療に切り替えている。処方された薬は地元の薬局が届けており、事業所の看護師と連携して服薬管理もスムーズに行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	カンファレンスを通じ、介護職員と看護師と共同で個々の利用者の病気と治療の為、医療機関と常に連携して対応している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院、退院に際して相互にサマリー作成し情報交換をし対応にあたっている。(医療、介護共通の様式を使用)		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化していく中で多くの家族が利用の継続について不安を抱いており、医療機関と連携し見取り対応を実施していることを初期の段階から説明し理解を求め不安の軽減に努めている。	契約時に看取りができることを本人・家族に説明している。重度化に合わせ入浴を清拭にしたり、移乗用リフトを活用している。福祉用具が必要になった場合には、併設のサービス付高齢者住宅に住み替えして看取することもある。医師の説明を受け、看取り又は入院を選択する機会を設け、看取りの段階では、家族の付き添いも可能としている。管理者は、訪問診療の充実が看取りを担当する職員の負担を軽減しているとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成して利用したり、カンファレンスをして対応できるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。また、BCP(事業継続計画)を活用し対策に取り組んでいる。	火災想定避難訓練を年2回行っている。1回は消防署立会いの下で実施し、もう1回は夜間想定訓練とし、民生委員に避難後の利用者の見守りをお願いしている。事業所が高台にあることから津波や水害時は地域の方の受け入れを想定しており、東日本大震災時には70名程を受け入れている。隣接の駐車場は現在も避難場所となっており、事業所には、町内の防災の拠点として備蓄倉庫も設置されている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であるということをしっかり理解し、利用者様を尊重するよう務めている。職員間でも注意するよう意識している。	戦争当時や子育ての話聞くたびに、利用者の経験や我慢強さに学ぶことが多いという。職員は利用者に尊敬の念を抱いて接するように心がけている。大きな声は出さずに柔らかいトーンでの会話を心掛け、名前のちゃん付けも行っていない。	
----	------	--	---	--	--

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中で思いや希望を聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日に行いたいことは自己決定してもらい利用者様のペースで過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣を選ぶ際利用者様に自己決定してもらい利用者様の意見を尊重している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつ、おかずの下準備を共同で手伝ってもらっている。配膳、下膳は感染症対策にて今は行ってもらっていない。	冷食を基本としつつ、昼と夕は手作りの品を1品追加している。利用者は落の皮むきやせんべい餅を丸める作業を行っている。敬老会やひな祭り等の行事には、食べたい物を聞いたり、これが好きなのではと好みを推測して献立を考えている。事業所の方針で、職員と一緒に食事をしていない。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を用いて摂取量を把握している。また、利用者様の希望にて小盛りや大盛りなど栄養バランス内で調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔清拭を利用者様のADLに合わせ声掛け、一部介助、全介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、定時声がけ誘導し、失禁前にトイレにて排泄できるよう対応している。	排泄チェック表を利用した声がけも、プライバシー保護に配慮して行なっている。トイレでの排泄を基本にしながら、本人の状態に合わせて尿取りパット、リハビリパンツ等を使用している。失敗した場合には、トイレや居室にさりげなく誘導している。居室内の臭いをチェックしながら、汚れ物等を取り除くこともさりげなく行われている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、排便の管理をしている。また、水分摂取やレクリエーション活動を通じて運動を促し、自力排便できるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決まっているが利用者様の体調、気分により時間帯や日にちをずらして入浴している。また、希望があればその都度対応している。	血圧や体温をチェックの上で午前中に入浴している。入浴時間帯を午後にしたいが、洗濯物等の関係で動かせないでいる。帰宅願望があり家に帰ってから入ると言う利用者もいるが、時間を置いて何回か声掛けをして納得の上で入浴できるように工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中においても自由に居室で休まれたりしてらっている。夜間も完全消灯を設けず状況に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師のみに任せず服薬内容もカルテにはさみ常に症状の変化に対応できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	主に担当職員を中心に支援している。一緒に料理をしたり、掃除をしたり、ゆっくりテレビを見たり、話をしたり、したいことを無理なく楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	担当職員決が中心となりコミュニケーションをとりながら対応している。しかし、家族や地域の協力体制はできていない方もいる。	利用者の力を見極めながら、可能な限り自由に過ごすようにしている。後ろから職員がついて行きながらも、近くのコンビニに1人で出掛けしている利用者はいるが、大半は事業所周辺を散歩したり、駐車場で外気浴している。家族と一緒に病院や理美容店に出かけたり、外泊する利用者もいる。花見や紅葉狩り、道の駅の見学にドライブで出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力を見極めて本人、家人承諾の元所持管理をさせている		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも対応できるようにしている。携帯電話を所持している方も何名かいる。また、タブレットを用いてテレビ電話など対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに、ホールの壁にレクリエーション活動で作成したものを飾り、季節感のあるよう努めている。温度は大型エアコンにて調整している。	グループホームのほか併設の小規模多機能ホームなどと共有する大きなホールがあり、ここでは、グループホームと小規模多機能ホームの利用者が共に過ごす空間となっており、知り合い同士で隣に座ったり思い思いの場所で過ごしている。地主さんが届けてくれる季節の花々をテーブルに飾ったり、鳥のさえずりなどの癒し系の音楽を流したりと、心地よく過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小規模多機能と併設しており、ハード面(建物構造)は十分なスペースを確保している。自由に使用できるソファも置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に制限は設けず、居室は本人の趣味、趣好を聴きできるだけ取り入れている。	テレビや冷蔵庫、衣装ケース、家族の写真のほか仏壇を持ち込み、毎朝お水やご飯を供えている利用者もいる。居室で時代劇や野球を見たり、編み物をして過ごす利用者もいる。消灯時間は決まっておらず、自分のペースで過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室ドアに張り紙をする等、対応している。ホール、トイレは広さを保ち安全に過ごしている。		